

## ニューノーマル

5月22日現在の国内の新型コロナの感染者は約1万6千人で、死亡者は799人。これは、年間40万人前後の人が遭遇し、3千数百名が亡くなる交通事故より少なく、年間約1千万人が罹患して、死亡者は1万人程度(超過死亡概念)とされるインフルエンザに遠く及ばない数字ですが、稀に重症化する人の報道は悲惨です。陽性反応と同時に家族との会話も断たれ、あっという間に亡くなって、お別れも出来ずに火葬され、遺骨が玄関にひっそり届く…。コロナで亡くならずとも、松風寺でも関東の家族が参列を断念した葬儀がありました。最近の御導師方の訃報には、コロナのために参列は遠慮くださいと添えられます。寂光に還られる有縁の御導師にお別れし、報恩の口唱を捧げることも叶わない所属のご信者の胸中を思うとき、つくづく酷い病であると感じます。早く良いお薬が行きわたり、安心して過ごせる日常が回復しますよう、日々ご祈願を重ねています。

とは言え、長期戦が予測される中、恐れて家に籠りっぱなしもいけません。十分に用心しつつ、コロナと共存する「新しい生活」を始めようと政府も呼び掛けています。

私が「ニューノーマル」という言葉を頻繁に目にするようになったのは4月に入る頃からと思いますが、言わんとするのはコロナを通して生まれた新しい価値観で、実際にこの数か月で地球の温暖化が少し改善されたり、通勤の無駄を省いて家族と過ごす時間の大切さに気付いたりと変化が生まれています。もちろん、新しい動きの中には不便なものもありますし、「新しい○○」の話には利害が絡む場合もあって慎重に判断をすべきですが、ご奉公も新たなスタイルを模索するチャンスと言えます。

朝参詣は椅子の間隔を空け、拡がって座るのが標準となりました。換気の時間を取るために、御法門前にユーチューブの動画を観ながら体操を始めましたが、これは良い習慣だと思います。参れない人にオンライン参詣も勧めたところ、御会式で6名、普段は1名と不評です。他寺院では長くお寺参詣出来なかった方たちの喜びの声をよく聞くだけに、「ネットを使ってまで参りたいと思わない」が大多数の現実は、少し寂しくもあります。もちろん、参詣の功德は、時間や労力を使って参る行為が生みますので、オンライン参詣が新しい標準とはなりません、参詣者を育てる新たな手段にはなり得ます。

佛立信心は、宗門やお寺を護る御有志と、教務員を護る布施供養というご信者方の浄志が外から支えてきました。特に教務員の外護は金銭だけのやり取りでなく、御講で互いが功德化する良き伝統の中で行われてきましたが、緊急事態宣言で「お寺に参れない」「御講が勤まらない」は想定外。何か月もつかを思案しました。実際、ロックダウンした海外教区や国内の首都圏では、長く続くため御布施をオンラインにした話も聞きますが、金封や新札を用意して丁寧に表書きし、気持ちを込めて供える手間が大事と学んできましたので、「○○ペイ」でピッと振込んで同様の思いが籠るかはやや疑問です。ともかく、試行錯誤で新たな功德行が誕生すれば、有難い限りです。

(松風寺月報 令和2年6月号)